

平成21年度

北海道南東方海域海流観測報告書

観測期間 平成21年9月16日～9月18日

第一管区海上保安本部

1 調査概要

(1) 目的

一管区管轄海域の海況把握を行うため、巡視船により海流観測及び水温観測を実施するとともに、海難救助等における漂流予測の精度向上のための基礎資料となる流況の収集と解析を行う。

(2) 調査区域

北海道南東方海域（図1）

(3) 調査期間及び経過概要

イ 調査期間

平成21年9月16日から平成21年9月18日までの3日間

ロ 経過概要

日次	月日	曜日	作業内容
1	9月16日	水	十勝港出港、海流観測
2	9月17日	木	海流観測
3	9月18日	金	海流観測、採水、十勝港入港、観測機材積下ろし

(4) 調査方法

イ 海流観測

使用機器 古野電気株式会社製 ADCP 音波ログ（CI-20-H）

観測層 海面下 10, 50, 100 m の3層

ロ 水温観測

使用機器 鶴見精機株式会社製 投下式水温深度測定装置 XBT MK-130

観測層 海底又は水深460mまでの連続水温（プローブはT-6型を使用）

2 調査結果

流況図を図2から図4に、水温水平分布図を図5から図9に、水温鉛直断面図を図10から図16に示す。また、XBT・ADCP観測成果を表1に示す。

(1) 流況

10m層について厚岸湾から襟裳岬の沿岸に沿って10～20海里沖に1.0～1.5ノットの親潮とみられる南西への流れを観測した。1.0ノットを超える強い流れの軸は、

幅が10海里程度であり、この流れは50m層についても10m層と比較してやや勢力が弱まるものの顕著であるが、100m層ではみられない。

厚岸湾沖の東側でも南西への流れがみられるが、西側と比べると流軸の幅が20海里以上と広いものの1.5ノット程度の強い流れはみられなかった。ただし100m層でやや勢力が弱まるが顕著な南西流がみられる。

10m層について北緯41度40分、東経145度付近には、暖水域の縁に沿った北北東への1.0ノット程度の強い流れがみられる。50m層についても同様で、100m層でもやや流速は衰えるが観測されている。

(2) 水温

表面水温について、調査海域は南東ほど水温が高く18 台の水温を観測した。16 以上の温暖域は十勝沖まで伸びている。一方、根室半島南方沖には13 台の寒冷域がみられる。親潮とみられる北海道南東岸に沿う南西への流れは15 台であり、周囲と比較すると水温が低い。(図5)

10m層についても同様の傾向であるが、50m層では岸に近いほど水温が高くなっている。(図6,図7)

観測範囲はほぼ全域で100m層5 以下で親潮域となっている。しかし、St10,18でそれぞれ 7 台と周辺より高温となっており、暖水域の存在を確認できる。

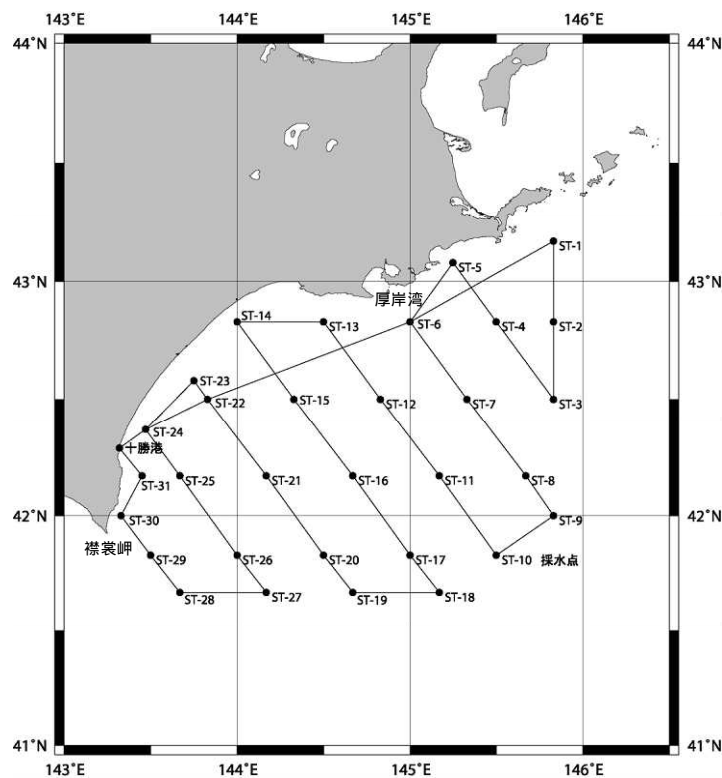


図1 調査区域

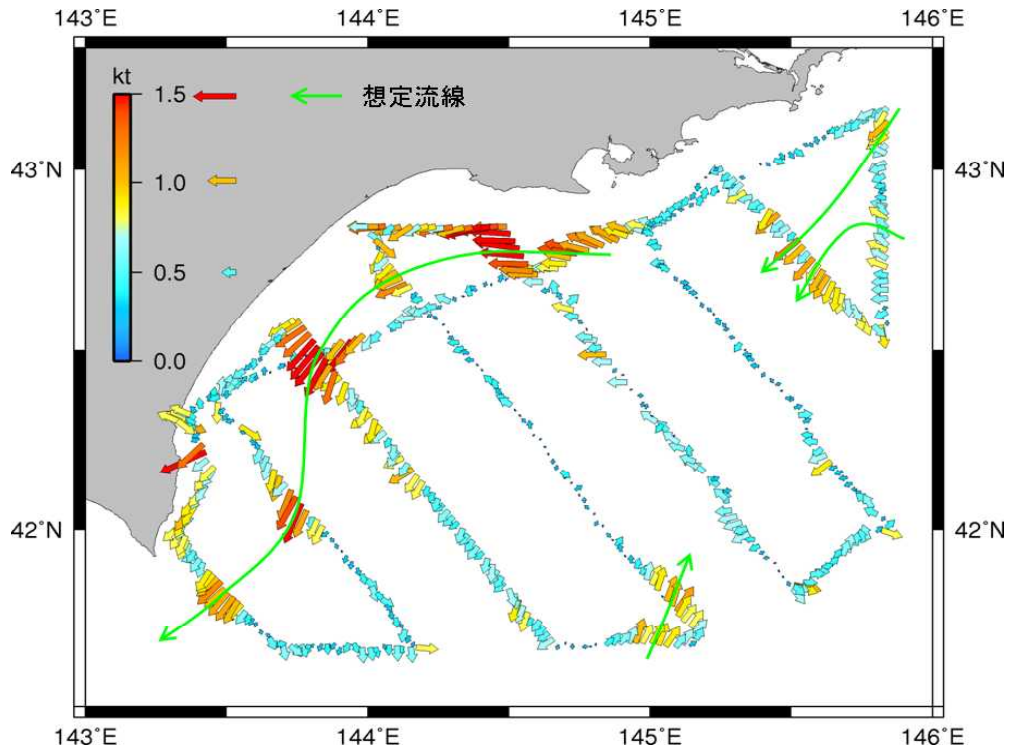


図2 流況図 (10m層)

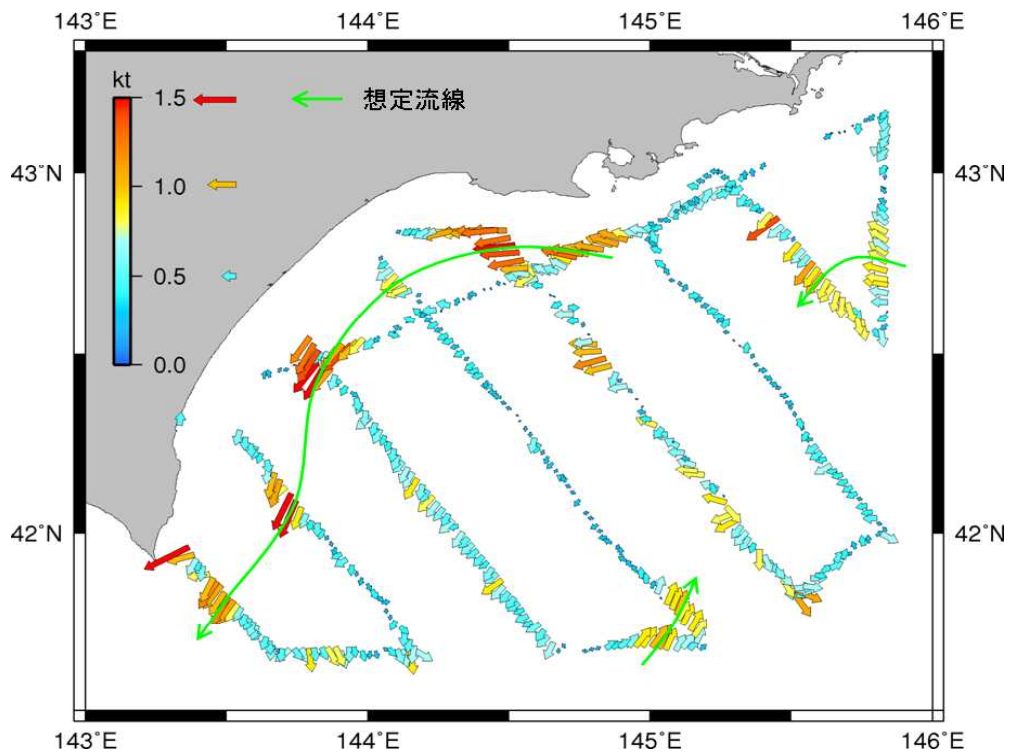


図3 流況図 (50m層)

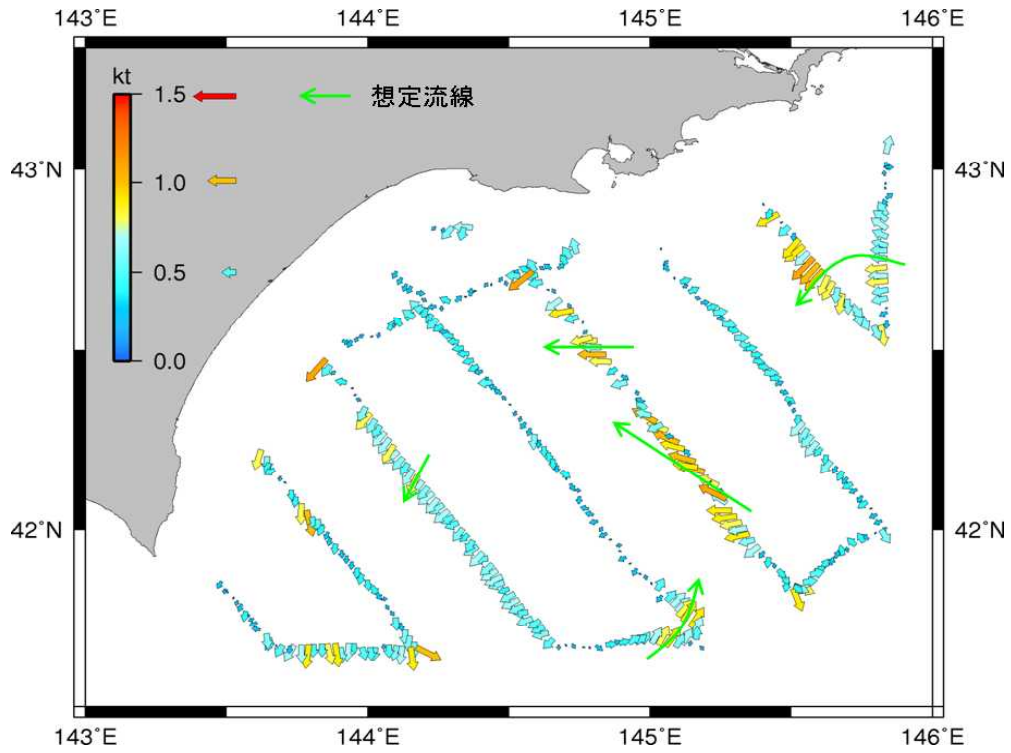


図4 流況図 (100m層)

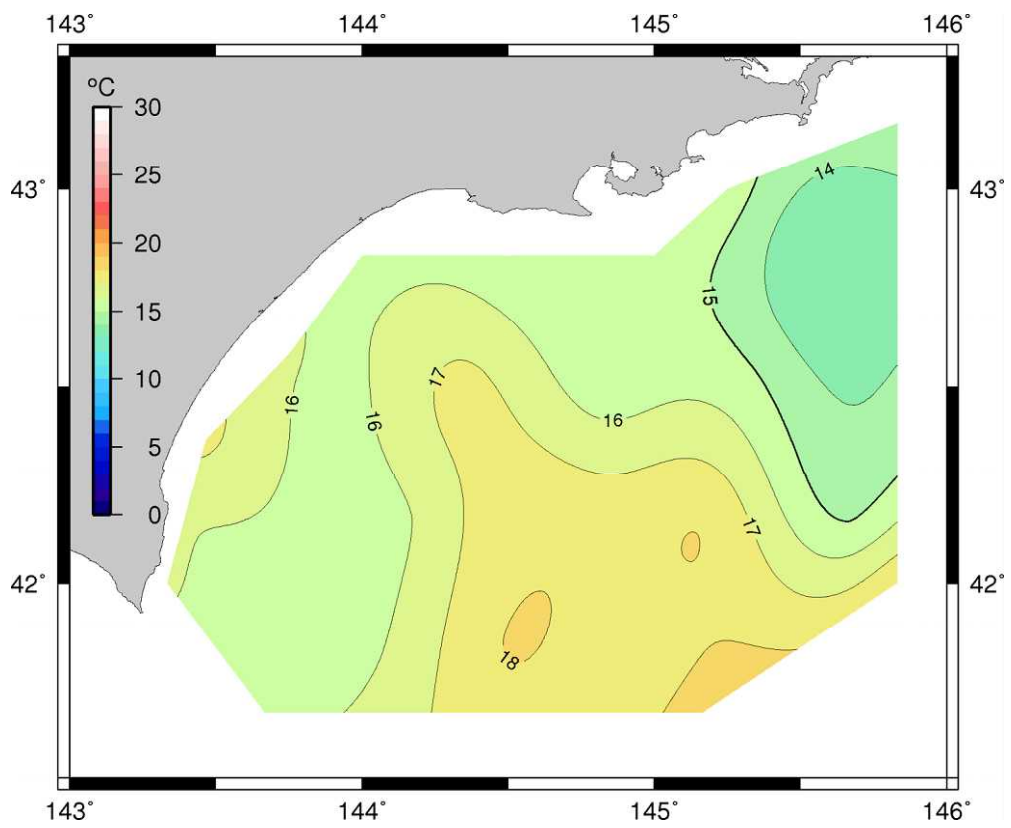


図5 水温水平分布図 (表面 4m層)

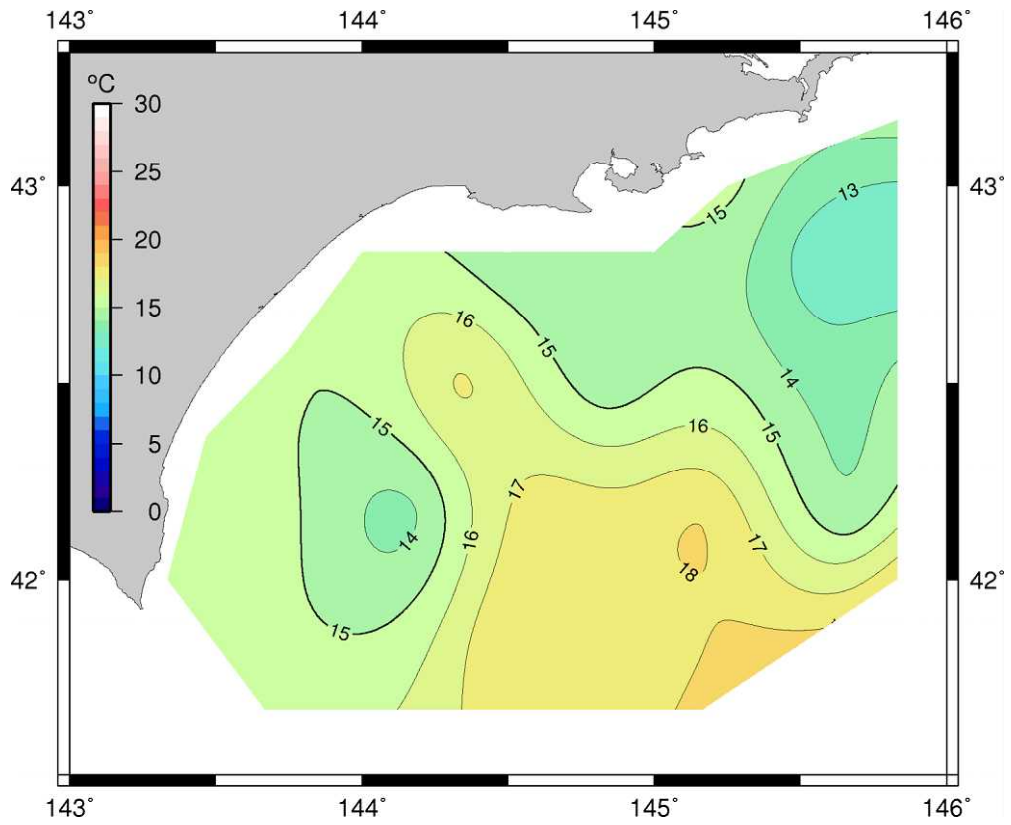


图6 水温水平分布图 (10m層)

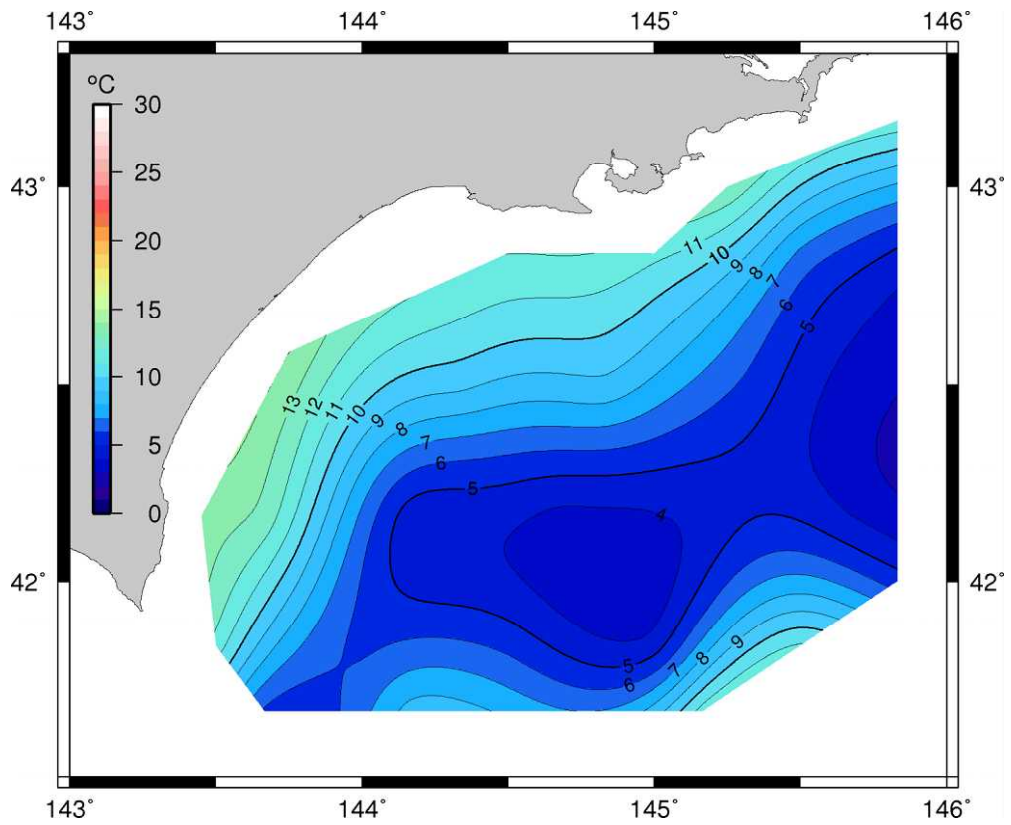


图7 水温水平分布图 (50m層)

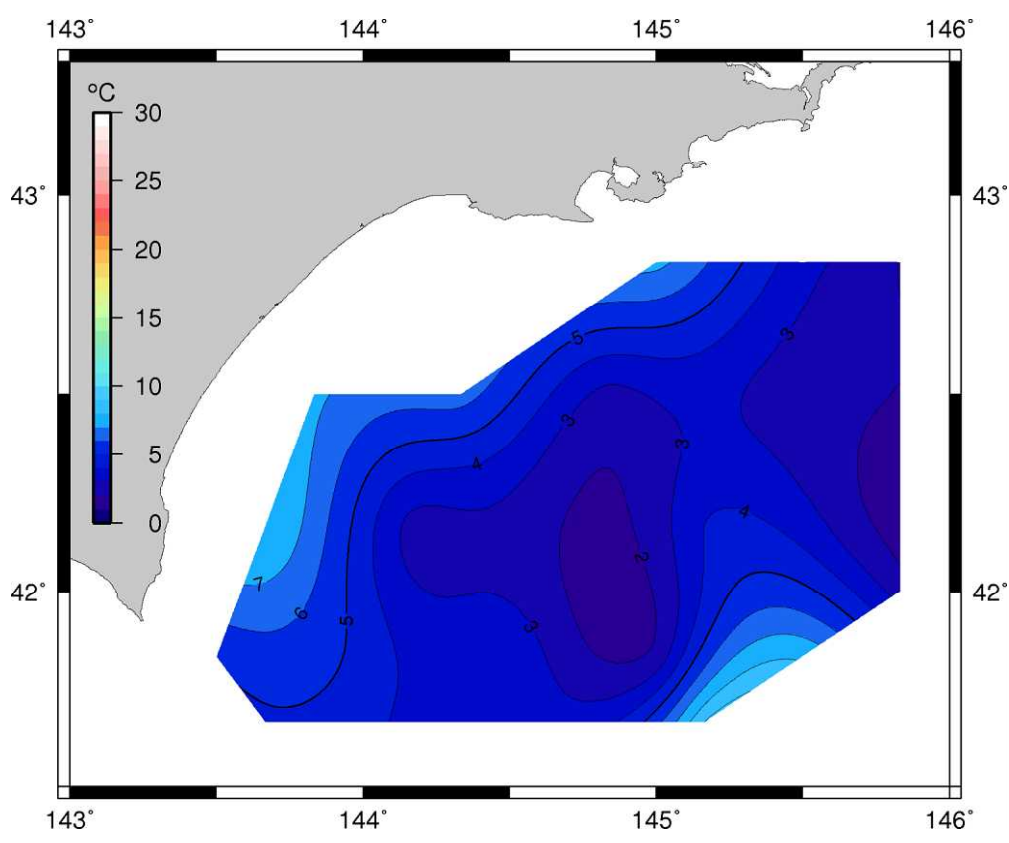


图8 水温水平分布图 (100m層)

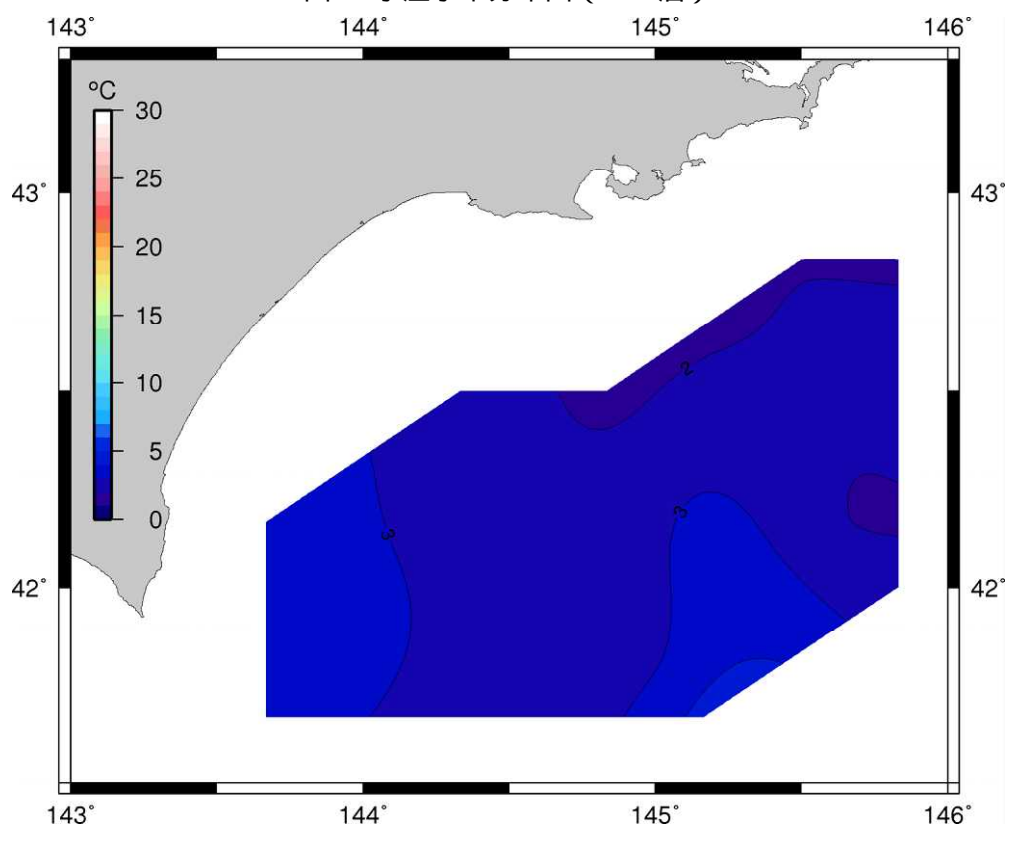


图9 水温水平分布图 (200m層)

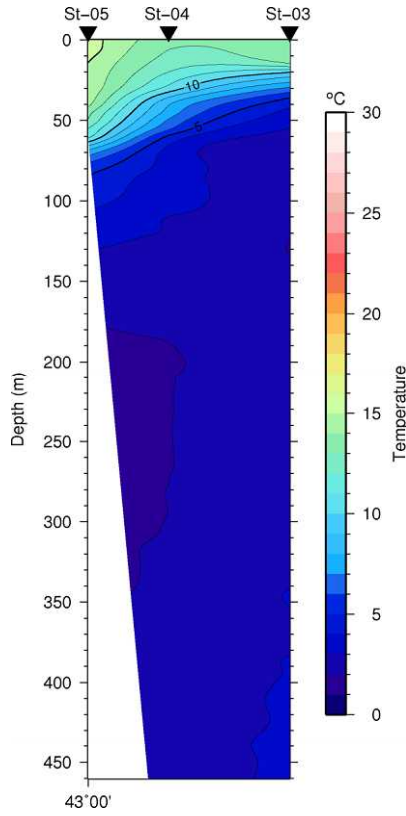


图10 水温鉛直断面图 (St3-St5)

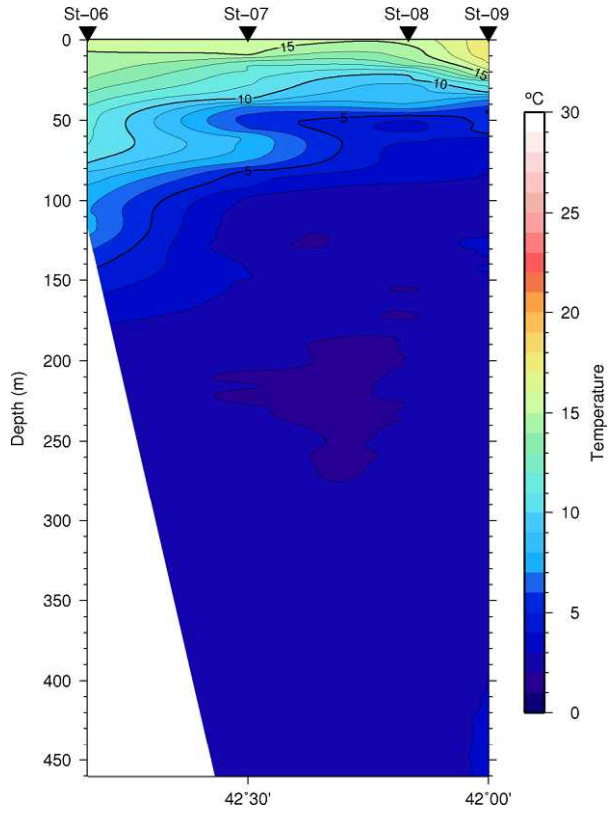


图11 水温鉛直断面图 (St6-St9)

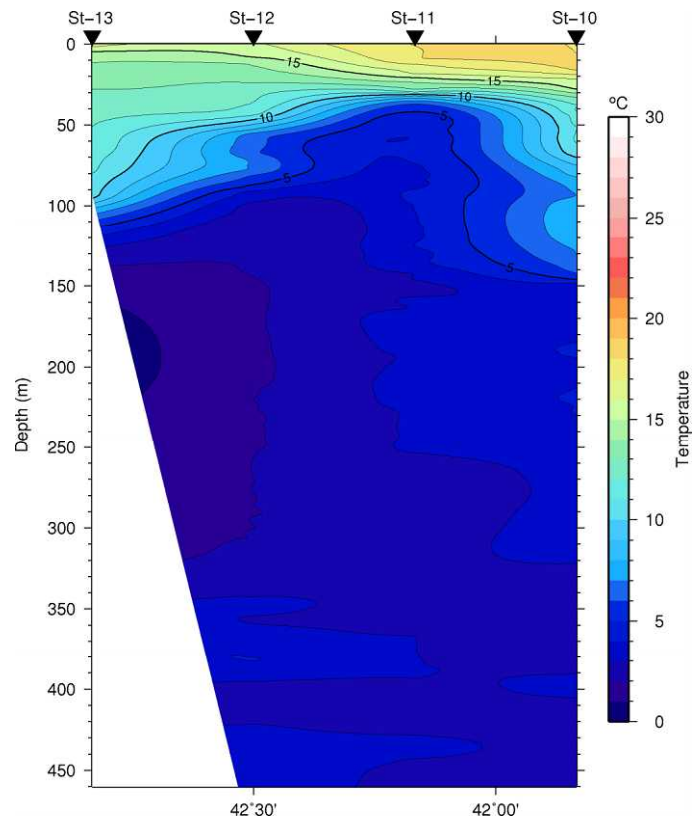


图12 水温鉛直断面图 (St10-St13)

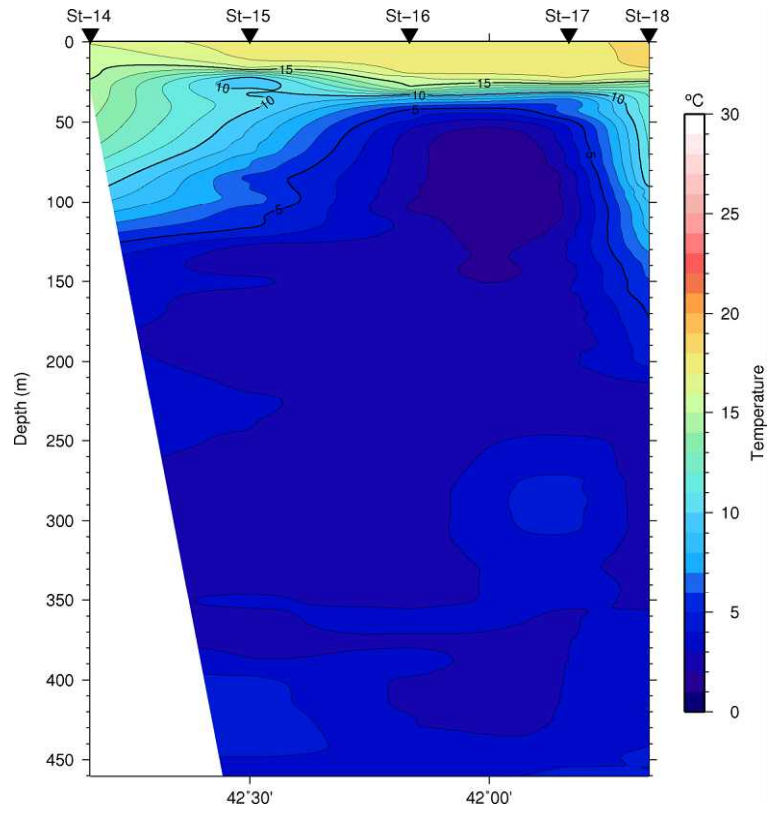


図13 水温鉛直断面図 (St14-St18)

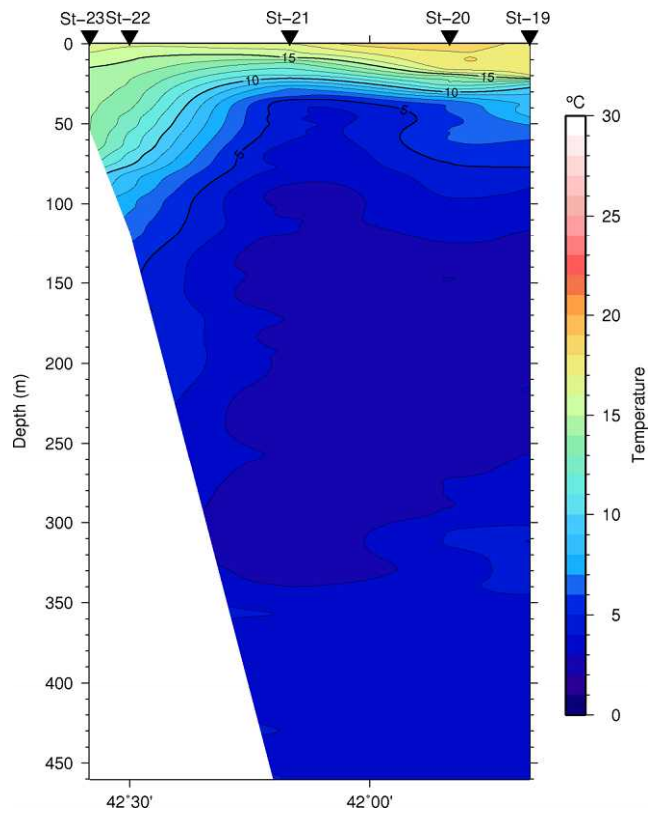


図14 水温鉛直断面図 (St19-St23)

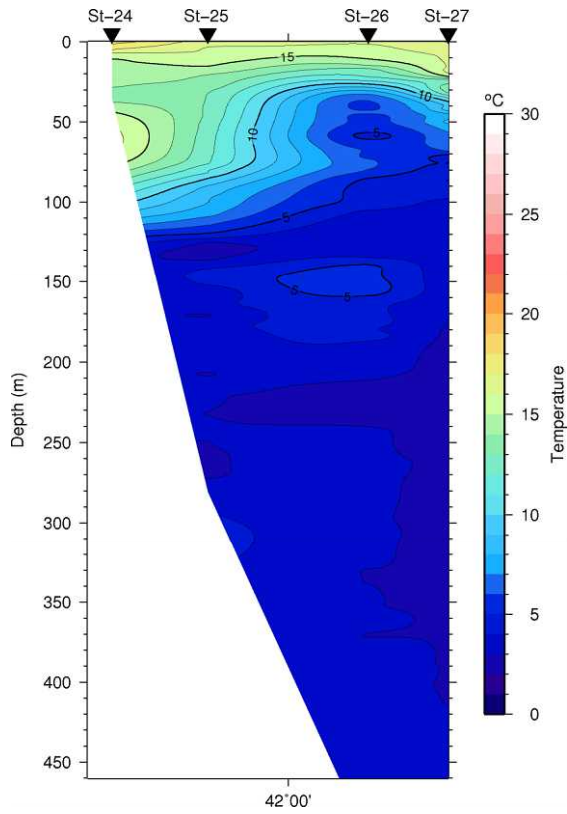


图15 水温鉛直断面图 (St24-St27)

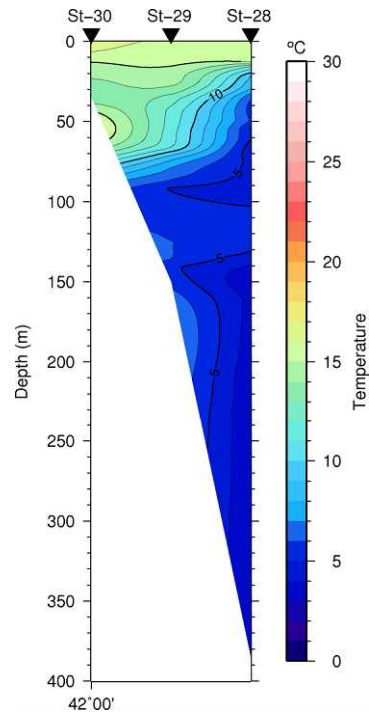


图16 水温鉛直断面图 (St28-St30)

